

# もみ殻の堆肥への有効利用による 環境保全型農業の取り組み

田園資源 × エネルギー・環境

・長谷川農園

## <取り組みの概要>

- ◆ 近隣農家（約三百町歩ほどの田んぼ）からもみ殻（注1）を回収し、もみ殻を原材料とした堆肥づくりを実施し、自家農園でチンゲン菜づくりを行っている。併せて、もみ殻だけでなく木材チップを原料とした堆肥づくりにも取り組んでいる。
- ◆ 毎年土壌分析、収穫した野菜の栄養成分分析を行い、成分量の把握とデータの蓄積を継続。
- ◆ 自家製堆肥の販売や土づくりに関する指導も行い、その普及にも力を入れている。

（注1） 精米の際にとれる米の外皮のこと。

## <取り組みの効果>

- ◆ 年間約10 t / 10a以上のもみ殻堆肥を土壌に投入し、連作障害（注2）が少ない土づくりに成功。土壌消毒を全く行わずに年間9回転以上のチンゲン菜栽培を可能にした。
- ◆ もみ殻に微生物資材や米ぬかなどを混ぜ発酵させることで、毒素が分解され、良質な堆肥が出来上がる。良質な堆肥を混ぜた土壌では、品質の高い野菜が栽培できる。
- ◆ 稲刈り後に発生するもみ殻の焼却による煙や臭いなどが毎年問題になる中、近隣農家から不要なもみ殻を回収し、それを原料とした堆肥作りを行い野菜作りに活かすことで、環境保全と野菜の品質向上を一度に可能にした。

（注2） 同じ場所で同じ野菜を続けて作ることによって、野菜が生育不良になっていくこと。

## < 長谷川農園 >

- ◆ 概要 : 新潟市西区を拠点とし、1,600坪のビニールハウス内で野菜栽培、及び稲作を行う農園。環境にやさしい、未来につながる農業を目指してチンゲン菜の栽培や独自の堆肥開発・販売を行っています。
- ◆ ホームページ : <https://hasegawafarm.com/>



## <取り組みに至った経緯>

- ◆ 最初は市販の堆肥を使っていたが、理想とする土壌環境をつくることができなかった。「完璧な堆肥」を目指して研究開発を始め、新潟ならではの有機物であるもみ殻堆肥に行き着いた。

## <取り組む際に生じた課題と対応方法>

- ◆ 「よい土づくりがよい作物を育てる」という思いで、土づくりの重要性やもみ殻堆肥の有効性を市場関係者や市内農家へ訴えてきたが、中々その理解が得られず普及に苦労している。人との交流の中で学び、また学びを得てもらうことを大切にしながら、長谷川農園の堆肥の良さを理解してもらえるよう努めている。

## <今後の展望>

- ◆ 今の農業には問題が山積みであるからこそ、農業の根底である「土」を見つめなおし、よりよい土づくりや、農環境づくりに取り組んでいきたい。
- ◆ 馬の敷き藁やフンを原料とした、もみ殻・木材チップに続く第3の新しい有機堆肥を開発したい。
- ◆ 「正しい評価」をしてくれる販路の開拓に努めていく。

## <活用した支援施策>

- ◆ 現在は補助金等の活用はないが、行政や大学などと連携し、よい土づくりについての講演会等の開催実績あり。